白門経友会

多摩キャンパスは すでに秋を迎えております。

異常に暑かった今年の夏もあっという間に過ぎ去り、多摩キャンパスでは後期授業が落ち着いた雰囲気で進んでおります。

さて、毎年6月初旬に開催してきている白門経友会定期総会は今年で28回目となり、次のプログラムで実施し審議事項は滞りなく了承されたことを報告させていただきます。

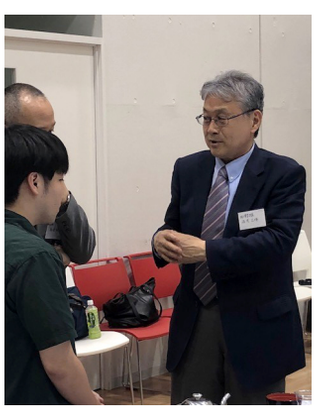
◇　◇

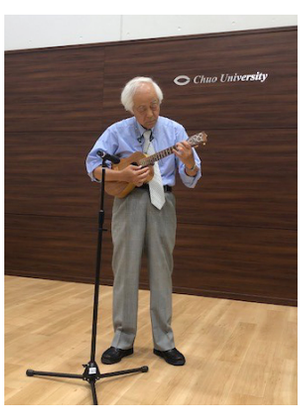
日時　平成30年6月9日（土）
　　午後2時　開会
場所　中央大学多摩キャンパス
　　7号館　7202教室
プログラム
Ⅰ 定期総会
　　午後2時～2時45分
① 平成29年度事業報告・決算報告
② 平成30年度事業計画・予算案
③ その他
Ⅱ 記念講演会
　　午後3時～4時30分
演題「世界のお金（通貨）の面白話 ―ドル、ユーロ、人民元、そしてビットコイン ―」
講師　中條　誠一　教授

講演では、国際的な通貨の現状から具体的なビットコインの課題に至る興味深い五つの話題について、大変分かりやすく説明していただきました。

講演会終了後は、生協2F 西側（旧ふらっと）へ移動し今回も経友会のOBと現役学生・教員との交流を深め、懇親の場として会員相互の交流を行うことができました。

今後も総会以外でも学生を含めた交流の場を増やす所存ですので会員各位におかれましては、幹事会等へのご参加とともに一層のご協力をお願い申し上げます。





＊＊

経済学部における グローバル教育について

すでにご紹介しておりますように本学部の特徴として、1995年から開始のインターンシップがあげられます。現在、すでに23年間が経過し対象分野も金融、ジャーナリスト、さらに海外インターンシップなど多様な分野に拡大してきております。そしてここ数年は海外でのインターンシップについて取り組んできておりますが、今後は、グローバル教育を一層推進するために、世界15都市に広がる海外の全ての白門会との教育連携を2021年度までに行い、学生を正課授業の一環として各都市へ派遣することを目指しております。

本年度、その準備としてより多くの海外の白門会と教育連携の実施に向けて意見交換を行う予定です。以下、その概要案と具体的なグローバル教育の一環としてのグローバルフィールドスタディとしてのゼミ活動の一部を紹介させていただきます。

【現状】

大 学

「Chuo Vision 2025」に基づくグローバル戦略として「海外学員との教育連携」を推進

グローバル教育の強化（2012～グローバル人材育成に関する補助金採択）

LA 白門会との連携開始（2017）

学 生

大衆化された海外インターンシップや海外派遣プログラムに参加→商業ベースのプログラムが多く、理念や特色がない。

中央大学で学ぶ意味と価値を見出したい

国際化の志を抱く中大 DNA を醸成

社会環境（キーワード）

少子化による他大学との競合

建学の精神（実学）、教育の質向上。

第 4 次産業革命、多様性の時代、人生 100 年時代。学び直し

→自ら考え行動する能力育成の必要性

【中央大学の課題】

多くの優秀な OB・OG が世界中で活躍しているにもかかわらず、そのネットワークを、大学教育や中央大学の魅力として外部への発信に活かしきれていないことが中央大学の課題です。このネットワークを活用した教育連携を行うことで、学生は「実学」精神を体現して国際化の志を育み、独自のグローバル教育に力を入れる中央大学として、大学および海外白門会の存在感を世界に示したいと考えます。

【テーマと主なポイント】

「海外学員（白門会）との教育連携」 ―学生、卒業生、大学の三方よしを目指して―

【具体的な企画内容】※連携パターンは支部により選択可能（大学希望としては、できればパターン①での連携をお願いしたく存じます）

パターン①　インターンシップの受入れ

A)就業型インターンシップ：白門会会員が勤務（または関連）する企業において、中大生が就業体験をする。

B)見学型インターンシップ：白門会会員が勤務（または関連）する企業に中大生が訪問し、企業見学をする。

★いずれの場合も、期間は2週間程度。受入れ企業数や学生数は、支部の規模やご都合に大学側が合わせる。

（例えば、1社あたり1週間で計2社での受入れ、あるいは1社あたり2日間で計5社での受入れ、など）

滞在はホテル泊を基本とする（手配は学生自身または白門会からのご紹介）。宿泊費や交通費は学生負担。

パターン②　ゼミ訪問の受入れ

ゼミ単位での海外フィールドワークにおける企業訪問の受入れ（従来からご協力いただいていることもあるかと存じます）。

◆先行事例

2017 年 9 月実施　ロサンゼルス白門会インターンシップ（見学型インターンシップとして実施）

1 日 2～3 社×2 週間（実質約 10 日）で計 28 社訪問。学生6名参加。2018 年度 9 月は学生4名参加予定。

【スケジュール】

	8～11 月	12～3 月	4～7 月	8～9 月
実施ご検討	→			
企業調整、学生募集		→		
事前学習			→	
受入れ実施				→

【今後の展望】

「現地で活躍する中央大学 OB・OG の協力によるプログラム」であることが、中大だけの特色として他大学との差別化につながると考えており、今後すべての海外白門会支部との連携を 2021 年度までに実現したいと考えています。中大生の育成にぜひお力添えを賜りたくお願い申し上げます。

◎谷口洋志ゼミが中国の重慶と成都でゼミ活動を実施しました。

谷口洋志ゼミ3年生19名は、2018年9月13日から9月17日の日程で、中国の重慶市と四川省成都市でゼミ活動（グローバル・フィールド・スタディーズ）を実施しました。

重慶市の西南政法大学経済学院では、谷口洋志教授による中国語でのミニ講演のあと、ゼミ生による英語プレゼンを行いました。ゼミ長挨拶の後、総合司会のもとで3班に分かれてプレゼンを行いました。学生間の交流は盛会で、質疑応答や昼食を含めて計4時間にわたる交流となりました。今回の訪問は、西南政法大学のニュースでも紹介されています。（http://es.swupl.edu.cn/xwzx/252249.htm）

学生交流のあと、最近の中国経済の中でも成長著しい西部地域の中心である重慶と成都において、ゼミ生は少人数のグループに分かれて、食文化、観光、ファッション、歴史・文化、交通網など経済の枠にとらわれない幅広いテーマと視点で現地調査を実施しました。

◎佐藤文博ゼミの学生がアジア3か国を訪問し、現地の学生とも交流しました。

2018年8月29日（木）より9月8日（土）まで、佐藤文博ゼミの2年、3年生の10名がバンコク、シンガポールとハノイの大学や企業等訪問しました。

（訪問先：ピワンヤット経営大学、チュラロンコン大学、テマセクポリテクニック、シンガポールポリテクニック、ムラタシンガポール、ニューウオータ施設、ハノイ国民経済大学）

GFSの基本的な目的は、最新のアジアにおけるICT活用の現状調査ですが併せて大学等では日本の現状に関するプレゼンテーションを通して現地の多数の学生との交流を行いました。さらに、バンコクとシンガポールでは、現地の白門会OBとの懇談を通して日本の大学生の課題等に関して認識を深めました。

◎後藤孝夫ゼミが中国上海でゼミ活動を実施しました

後藤ゼミ3年生11名は、2018年9月8日から9月11日の日程で、中国上海でゼミ活動を実施しました。

今回の目的は、（1）日本航空株式会社上海浦東空港所にご協力をいただき、空港内の施設見学および日本航空の海外での業務内容等に関するインタビュー調査を実施すること、（2）学内外のプレゼン大会出場にむけて、①テーマパークの経営戦略、②高速鉄道インフラの輸出状況、そして③タクシーサービスの今後のあり方、という3つの研究対象に関してグループごとにフィールドワークを行うこと、の2点でした。

短い滞在期間でしたが、海外で自主的に考えて自ら行動する経験は、学生達にとっても大変有意義だったようです。

◎篠原正博ゼミがニュージーランドでゼミ活動を実施しました

篠原ゼミ3年生7名は、2018年9月4日から9月9日の日程で、ニュージーランドのオークランドでゼミ活動を実施しました。

今回の目的は、（1）女性の社会進出が進んでいるニュージーランドにおける女性労働の現状と問題点に関してレクチャーを受けること、（2）ニュージーランドにおける観光戦略（インバウンドおよびアウトバウンド）に関するヒアリングを実施すること、（3）オークランド大学で英語プレゼンを行い現地の学生と交流を行うこと、の3点でした。

短い滞在期間でしたが、学生達は大いに刺激を受け、またニュージーランドを楽しんだようです。

え、あの先生が　シリーズ㉖

経済学部准教授　吉見　太洋

２０１７年度後期より中央大学経済学部に着任いたしました、吉見太洋（よしみたいよう）と申します。中大に来る前は、愛知県名古屋市にある南山大学経済学部で7年半勤めておりました。長く過ごしたこともあり、名古屋には第二の故郷のような愛着を持っています。出身地は東京で、昔から世話になっている伯父も八王子市に住んでおりますので、中大で教鞭をとるということについて、地理的な意味からも深いご縁を感じています。また、歴史と伝統のある中大で研究と教育に携わるということに、強い誇りと責任を感じています。

私の専門分野は国際金融論で、経済学部では「国際金融論」、「基礎マクロ経済学」、「総合講座Ⅲ」といった講義を担当しています。三つ目の総合講座Ⅲは経済学の学習に必要な数学の基礎を教える内容になっています。国際金融論は経済学の基本的な発展分野の一つ、基礎マクロ経済学は経済学の基礎的分野、数学は経済学の様々な分野で用いられる基礎的ツールですので、どの講義でも学生が理解しやすいように丁寧な解説を心がけています。また、少人数の演習も担当しており、様々な経済学的トピックについて日々学生と共に学んでいます。現在受け持っている三年生ゼミでは酪農について、二年生のゼミでは国連のSustainable Development Goals（SDGs）の経済学的側面について学んでいます。私自信研究関心の幅が広い方ですので、演習を通じた学生との学びをとても楽しんでいます。

研究面では、貿易決済通貨や為替相場パススルーといった、国際金融的トピックを中心に取り組みを進めています。貿易決済通貨というのは、企業が貿易取引を行う際に契約する決済の建値通貨を指します。例えば日本の企業が米国向けに輸出を行う際に円建てで決済契約を出来れば、支払額にかかる為替リスクを回避できるという便益があります。ただし、為替の変動に応じて実際には価格を調整する動きも出るかも知れません。この「為替が貿易価格に与える影響」のことを為替相場パススルーと呼びます。私の研究の中心は、貿易決済通貨や為替相場パススルーがどのように決まっているのかを明らかにすることにあります。また、こうした国際金融的トピック以外にも自由貿易協定、関税と価格の関係など、広く国際経済学に関連するトピックについて取り組みを進めています。

まだ着任して一年程度ですが、様々な中大の魅力を感じています。例えば立地についてですが、経済学部のある多摩キャンパスは都心から少し距離があるものの、都心にはない解放感の中で学び、仲間を作っていくことは学生にとって大変有益なことだと思います。研究者としての立場からは、様々な研究支援の制度が整っていることも魅力的です（もちろんそれに甘えず、外部資金の獲得や外部機関・研究者との連携など、学外を向いた研究活動を推し進めることも極めて重要です）。教員としての立場からは、打てば響く学生の優秀さも魅力です。最後に、多くの卒業生が社会で活躍されているという事実は、現役学生にとって大きな財産です。これをお読み頂いた卒業生の皆様には、ぜひとも現役学生をかわいがって、様々なチャンスを与えてやって頂きたいと思っています。

編集後記

今年も無事に総会を終えることが出来ました。今回講演をお引き受けいただいた中條先生をはじめとして、ご協力いただいた方々にこの場をかりてお礼申し上げます。総会は例年6月上旬の土曜日に開催しております。来年はさらに多くの会員、学生の皆さんが参加されて有意義な交流の場となることを期待しております。

さて、ご存じのとおり中央大学では来年度「国際」を名に冠した新学部が開設されます。そこで本号では、経済学部での、長年の教育実績を踏まえたグローバル教育の取り組みの一端を紹介させていただきました。

（幹事長　濱岡　剛）

2018年9月25日　第70号
発行　白門経友会常任幹事会
編集　白門経友会編集委員会
〒192-0393
東京都八王子市東中野742-1
中央大学経済学部内
URL : www.wg-keiyukai.com
Fax : 042-673-3425